

あいち知事選新聞

THE AICHI CHIJISEN SHIMBUN

わたしのイチ押し政策

2、3面



おおむら ひとあき
大村秀章

十七日に告示された愛知県知事選は、二月三日に投開票される。人口は全国四位の七百五十四万人、製造品出荷額は約四十五兆円(二〇一七年)と四十年連続で全国一位のものづくり王国・愛知。その未来を誰に託すか。県のリーダーを選ぶ判断材料にしてみよう。立候補者二人に二十の質問をぶつける「あいち知事選新聞」を作り、それぞれの政策や人となりを解剖した。



くま まつ ひとし
樽松 佐一

解剖 2.3 知事選

生年月日 1960年 3月 9日 (58歳)
身長・体重・血液型 168cm 74kg A型

学歴・職歴
碧南市立 蕉葉保育園、豊橋小、東中
愛知県立西尾高校、東京大学法卒
農水省 衆議院議員(5期)、経済産業省
内閣府 厚生労働副担、愛知県知事(2期)

趣味・特技
読書、経済と政治の歴史(有馬稲大博士)
スペインはアマト(組)、国産「サカ」ラギビ部

選挙戦のキャッチフレーズ
日本一元気な愛知をつくろう、日本の未来を
リニア新幹線、産業革命あり、ジャリパワ
教育・医療・福祉の充実、お金の人が取らな

生年月日 1956年 2月 5日 (62歳)
身長・体重・血液型 163cm 67kg B型

学歴・職歴
静岡県小笠町(現菊川市)出身
県立掛川西高校、名古屋理学院
いんせいの環境工学研究所代表、日福社院に
社会人入学、愛知連車庫局長、議長

趣味・特技
料理、ハラマダガーデン

選挙戦のキャッチフレーズ
誰かおふつづのくらしにできる
頑張っている人、困っている人に
応援します

知事選春秋
二〇一一年の年明けを前に、ノーベル物理学賞受賞者の益川敏英さんを名古屋大に訪ねた。リーマン・ショックの傷なお癒えぬ愛知は、新たな年にどう向き合おうべきか。指針を求め、ドアをたたいた▼経済でも教育でも悪い面ばかりが目につくが、頭在化した矛盾を克服する努力を続けていけば、やがて脱皮して新しいチヨウチヨが生まれる。それを忘れなければ、愛知はまだまだ発展できる。独特の言い回しでそう語ってくれた▼その一年知事選で初当選したのが大村秀章さん。革新系候補の参謀として対峙したのが樽松佐一さん。薄暗い経済不況のどん底からはい上がり、愛知を発展させてきたと自負する大村さんと、大型開発優先ではなく教育・医療・福祉を第一に、と訴える樽松さんによる直接対決が今回の知事選である▼あれから八年、愛知は新たなチヨウチヨとなれたのか。平成の先の新時代に求められるのは継続か刷新か。一票を投じるに当たり、そう自らの胸に問い掛けてみる。(愛知県政キヤップ・鎮西努)

手書き文字は候補者の直筆です

愛知県知事選に向けた特別紙面です。抜き取り、折じみたんでお読みください。

